

# コミュニティソーシャルワークをイメージするための参考事例【包括的な相談支援体制 **編**】

## 岡部 正文（東京都・荒川区）

相談支援従事者の人材育成及び相談支援専門員とピアサポート専門員の協働支援モデルの普及と独立型相談支援事業所の促進に尽力しています。

- 平成26年～：一般社団法人 ソラティオ 代表理事
- 平成27年～：相談支援センターあらかわ 所長
- 平成28年～：荒川区精神障害者相談支援事業所 所長
- 令和 2年～：荒川区基幹相談支援センター 所長

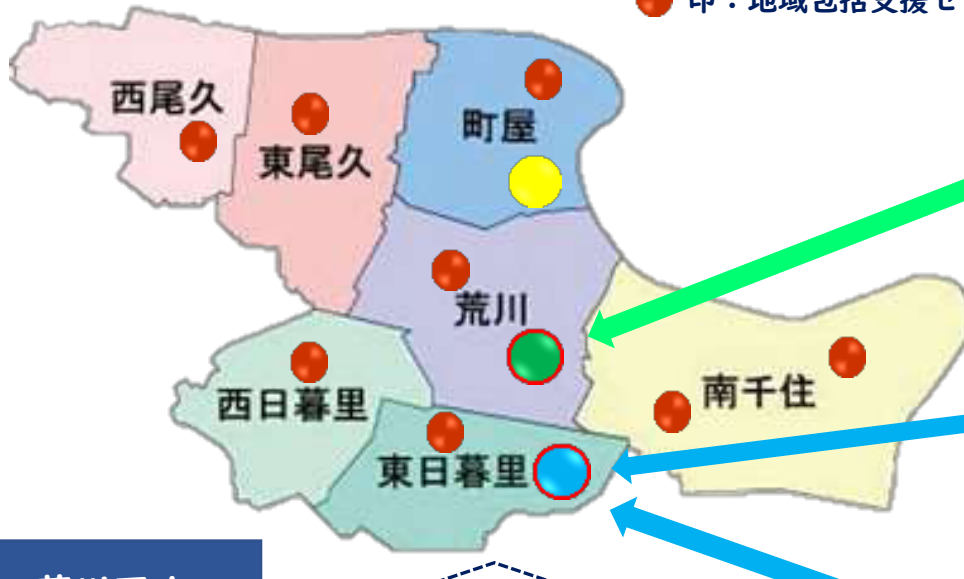
厚生労働省 相談支援従事者指導者養成研修（コア検討委員）  
厚生労働省 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業（広域アドバイザー）  
特定非営利活動法人 日本相談支援専門員協会（理事）  
一般社団法人 地域で暮らそうネットワーク（理事）  
福祉分野における各種ファシリテーション研修（講師）



# 東京都・荒川区の相談支援体制【障害福祉】

特定相談支援事業所：10ヶ所

● 印：地域包括支援センター



**3** 荒川区障害者基幹相談支援センター

<第3層>

地域における相談支援体制の整備や社会資源の開発など

**2** 荒川区精神障害者相談支援事業所コンパス

<第2層>

一般的な相談支援

**1** 相談支援センターあらかわ

<第1層>

基本相談支援を基盤とした計画相談支援

計画：550名前後  
定着：35名前後

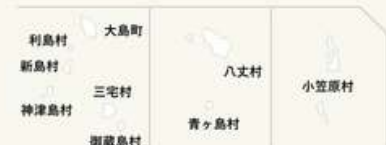
- 計画相談支援
- 地域相談支援
- 障害児相談支援
- 自立生活援助

東京都精神障害者地域移行促進事業

荒川区人口  
216,349人

高齢化率  
23.5%

手帳取得者数  
10,853人



# 障害者相談支援の今後に向けて（基幹Cの役割）

課題

相談支援の質の向上

目指すもの

持続可能な  
地域生活支援



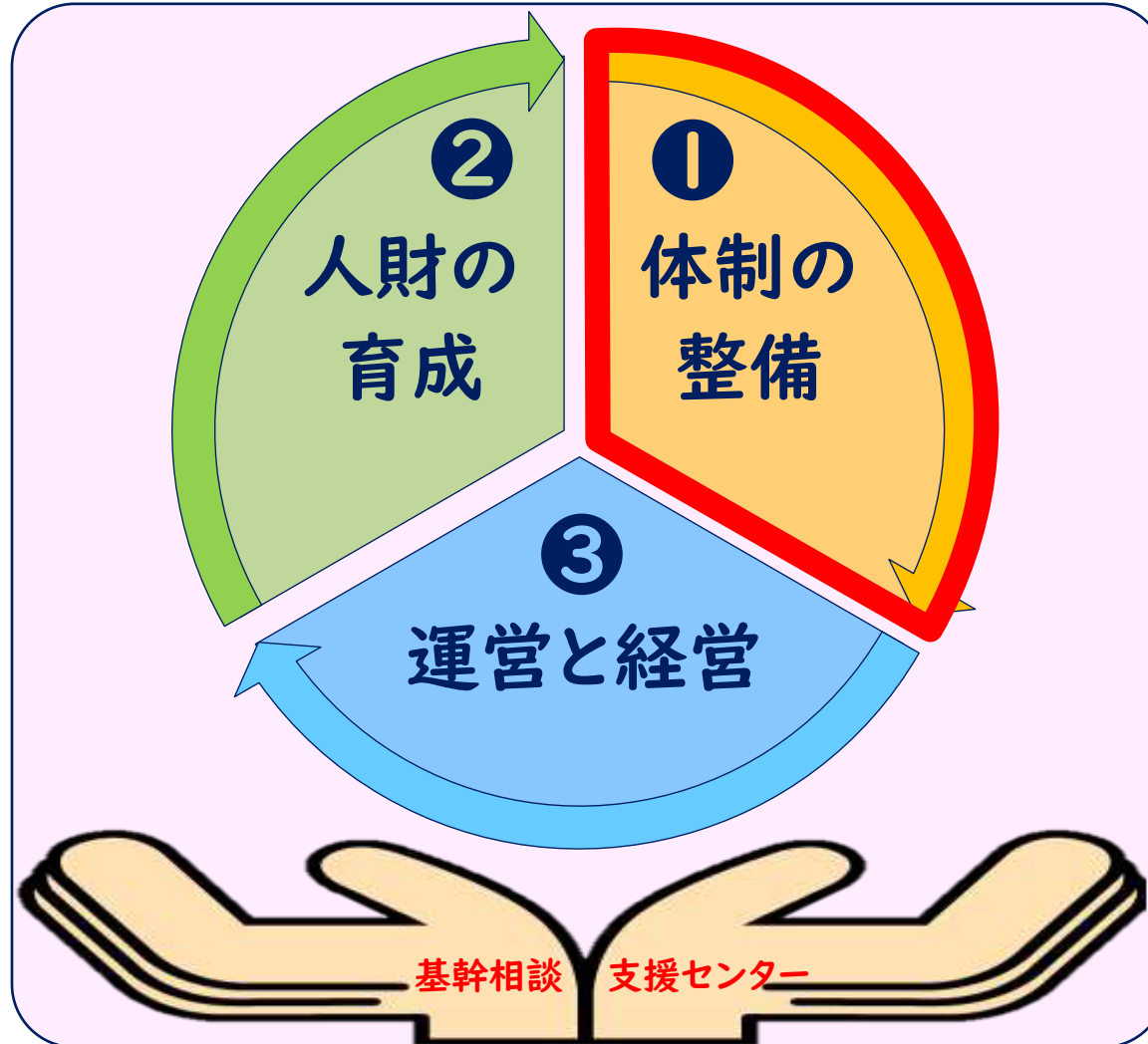
地域移行

高齢化

障害の重度化

医療的ケアの  
必要な見者

自然災害



障害者の  
尊厳の確保、  
社会参加等

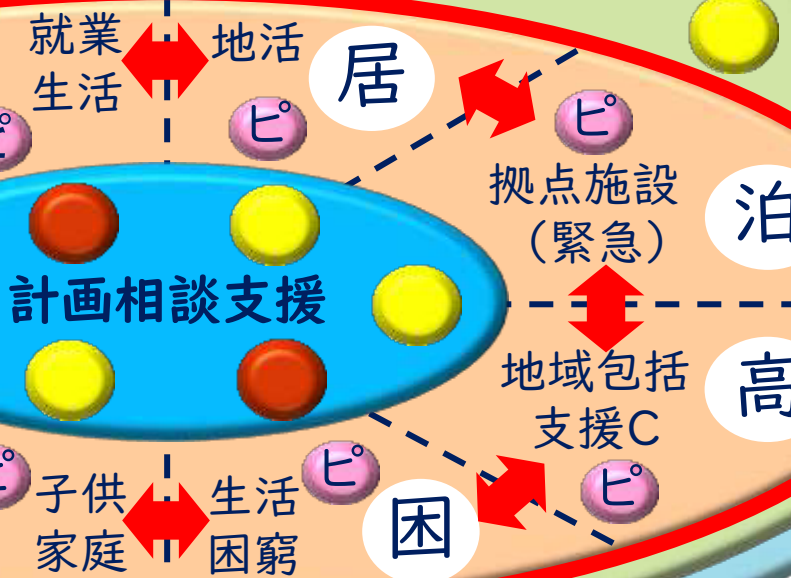
地域共生  
社会の実現

相談支援事業所

サービス提供事業所

全国

県内



就業生活 ↔ 地活

働 居

一般的な相談支援

拠点施設 (緊急)

相 泊

療育/発達

地域包括支援C

療 高

子供家庭 ↔ 生活困窮

子 困

ピ  
ピアスタッフ  
(親もあり)

連携できる体制を構築する役割



基幹相談C

協議会

行政

法律 (障害者基本法/障害者総合支援法等)

条約 (障害者の権利条約/子どもの権利条約等)

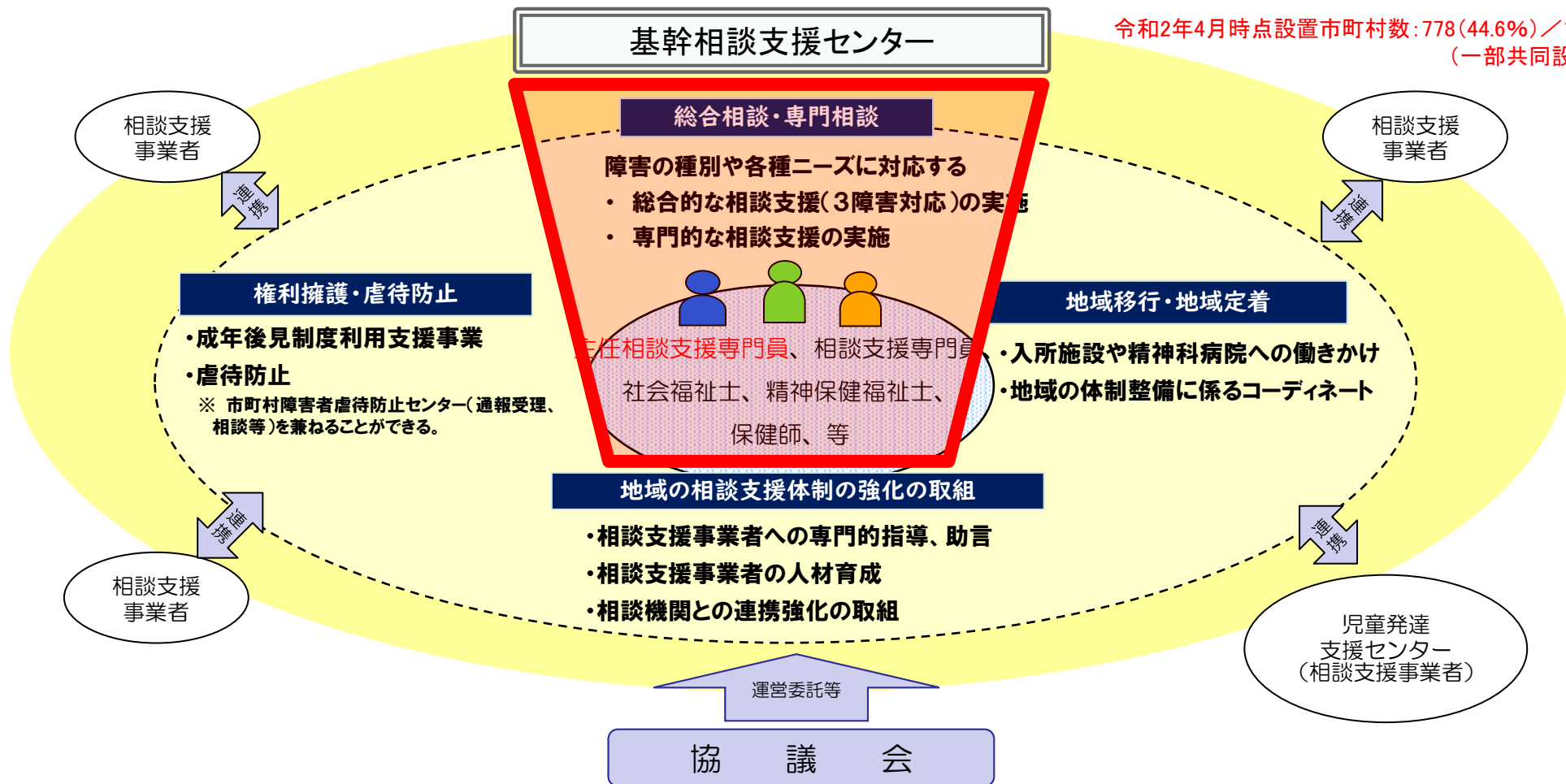
日本国憲法

# 基幹相談支援センターの役割のイメージ

基幹相談支援センターは、地域の相談支援の拠点として総合的な相談業務（身体障害・知的障害・精神障害）及び成年後見制度利用支援事業を実施し、地域の実情に応じて以下の業務を行う。

- ※ 平成24年度予算において、地域生活支援事業費補助金により、基幹相談支援センターの機能強化を図るための、①専門的職員の配置、②地域 移行・地域定着の取組、③地域の相談支援体制の強化の取組に係る事業費について、国庫補助対象とした。  
また、社会福祉施設等施設整備費補助金等により、施設整備費について国庫補助対象とした。

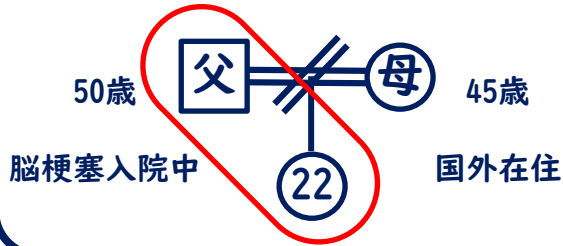
令和2年4月時点設置市町村数: 778 (44.6%) / 1741  
(一部共同設置)





# 複合的な課題を抱える世帯への支援事例【相談の支援】

## 家族構成



## 支援のきっかけ

- 叔母を通じて、娘が基幹相談支援センターに相談に来所した。
- 父は3ヶ月前に脳梗塞を発症し、寝たきり状態となる。
- 母は3年前に離婚し故郷（国外）で生活している。
- 娘は不登校経験あり、中卒後アルバイト（月7万円）をしているが、父が入院してから精神的な不調が出ている。



## 支援内容

### <支援開始>

- 主任相談支援専門員が娘と面接し、課題とニーズを明らかにする。

### <世帯が抱える多様な課題を整理>

- 初回相談では、課題が複合的であるため、娘さん自身エネルギーが枯渇していた。

父：入院前は警備の仕事をして家計を支えていたが、借金も多額にあり。

母：国外に居住するものの住民票は国内にあり、保険料等も母が同居の状態で見積られている。

娘：中卒後は細々とアルバイトに取り組んできた。父の入院後、不眠と急に涙が出たり不安定。父の病院対応の他、家計のやり繰り等を全て対応しているが、家計の全体像を把握できていない。

### <多機関との連携による支援>

- 主任相談支援専門員は関係機関（保健所、父が入院している病院、生活困窮者相談窓口、生活保護、介護保険課、保険年金課、税務課、不動産屋、社協等）の総合調整役を担い、連携を図りながら世帯への個別支援を行う。

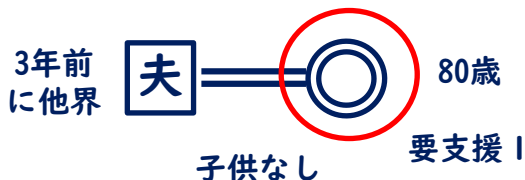


## 効果

- 諸課題が整理され、娘さんの自立支援の見通しがついた。
- 父も気になっていたことが整理され安心し、娘さんも諸課題が解決してメンタル回復した。
- 個別支援を通じて、関係者連携がより円滑となった。

# 複合的な課題を抱える方への支援事例【参加の支援】

## 家族構成



## 支援のきっかけ

- 同居の夫が3年前に他界した後、包括支援Cが定期的に見守り。
- 3ヶ月前に精神科を初診して知的障害（中等度）と診断された。
- 金銭管理ができず、文書や数字が理解できないので「文字を読めるようになりたい」と希望があり、包括支援センターから基幹相談支援センターに相談が寄せられた。



## 支援内容

### <支援開始>

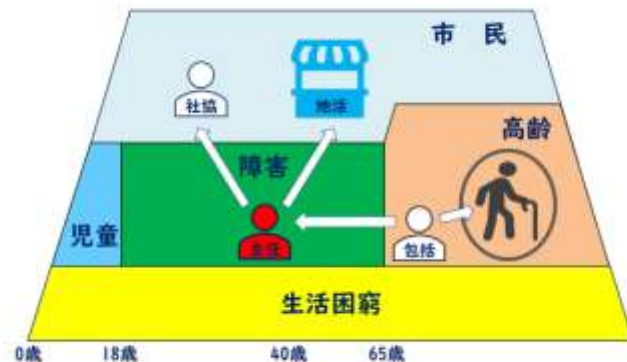
- 包括支援センターからは「療育手帳の取得方法を知りたい」と相談があったが、主任相談支援専門員がニーズの捉え直しを行った。

### <ご本人が抱える多様な課題を整理>

金銭管理	通帳が読めず、知人にお金を払って助言をもらっている。
地域の支え合い	町内に頼れる市民がいない。
社会参加	「まずは、文字を読めるようになりたいの!」と誘いを拒否。
他者交流	節約を優先し、知人が喫茶店に誘っても断っている。

### <多機関との連携による支援>

- 主任相談支援専門員はご本人の不安感と孤独感に着目し、関係機関（包括支援センター、保健師、社協、地活等）を招集して担当者会議実施。地域の情報が集まり、ご本人の強みを活かして地活（書道サークル）への参加と同じ町内に住む元社協職員のつながりを作ることとなる。



## 効果

- 基幹の主任がコーディネートしてご本人の強み（書道）を生かした地活利用につながった。
- 元社協職員とのつながりもでき、信頼関係構築後は地域福祉権利擁護事業を提案していく予定。
- 関係機関の連携が促進された。

## 相談の支援



オールケアマネで培ったネットワークを活かしてコーディネートを行い、事例を通じて相談支援体制の更なる強化を図る。

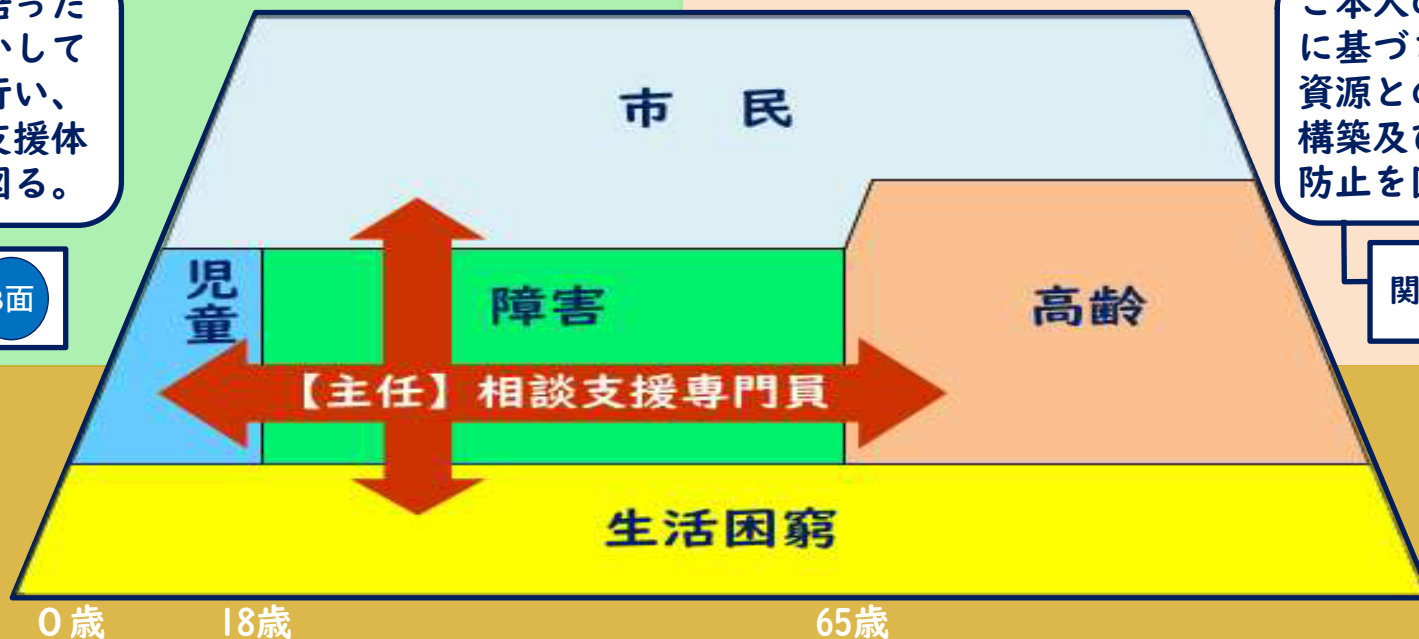
相談支援専門員の A面 B面

## 参加の支援



ご本人の興味・関心等に基づき、様々な社会資源とのつながりの再構築及び社会的孤立の防止を図る。

関係者の A面 B面



①重層的支援体制整備

②地域生活支援拠点

③精神障害にも対応した地域包括ケアシステム

④居住支援

⑤医療的ケア

⑥災害対策

# ご当地ならではの地域づくり